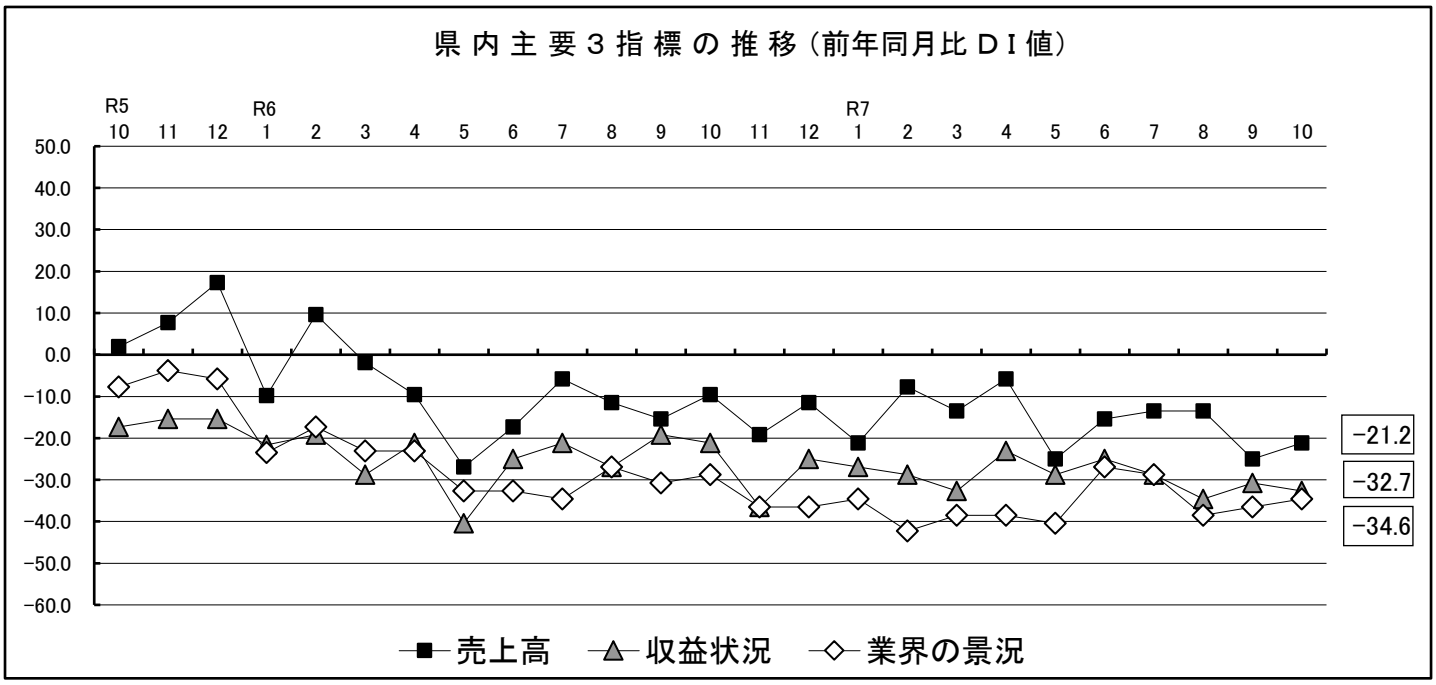
中小企業団体情報連絡員報告結果（令和7年 10 月分）

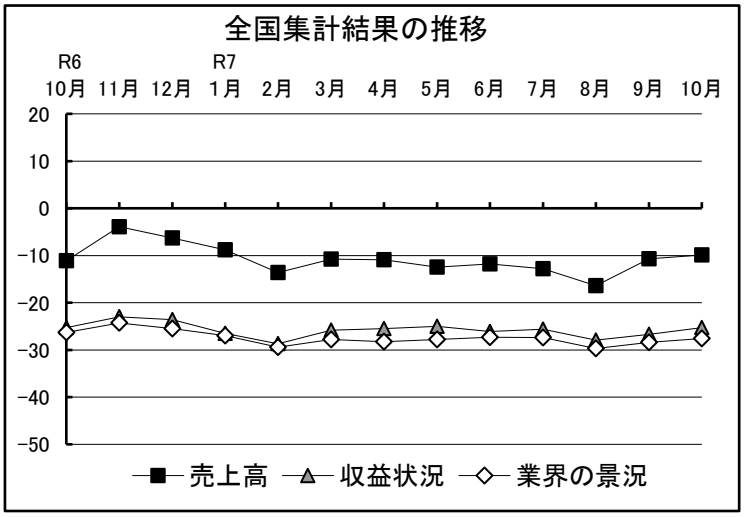
栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員（中小企業組合（協同組合、商工組合等）の役職員５２名に委嘱）による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

○10 月の前年同月比 DI 値は、前月と比べて、主要３指標では「売上高」と「業界の景況」で上昇した一方、「収益状況」は低下した。その他の指標においては、「在庫数量」と「雇用人数」の２指標が上昇したが、「販売価格」「資金繰り」の２指標で低下し、「取引条件」「操業度」においては変化が見られなかった。
○人手不足及び後継者不足が深刻化するなか、当月からの最低賃金の引き上げに伴う賃上げの原資確保が難しく、収益面での圧迫が続いている。
○景況感は依然として厳しい状況ではあるが、一部の業種で価格転嫁や受注増加により持ちこたえており、今後も慎重な経営判断が求められている。



主要3項目	県内		全国	
	DI 値	前月比	DI 値	前月比
売上高	−21.2	3.8	−9.9	0.8
収益状況	−32.7	−1.9	−25.3	1.4
業界の景況	−34.6	1.9	−27.6	0.8



売上高

当月の県内売上高 DI 値は、前月より 3.8 ポイント上昇し -21.2 ポイントなった。全国においては、0.8 ポイント上昇し、-9.9 ポイントとなった。

収益状況

当月の県内収益状況 DI 値は、前月より 1.9 ポイント低下し、-32.7 ポイントとなった。全国においては、前月より 1.4 ポイント上昇し、-25.3 ポイントとなった。

業界の景況

当月の県内業界の景況 DI 値は、前月より 1.9 ポイント上昇し、-34.6 ポイントとなった。全国においては、前月より 0.8 ポイント上昇し、-27.6 ポイントとなった。

-概　況-

10 月の前年同月比 DI 値は図表２のとおり前月と比べ４指標が上昇し、３指標が低下した。主要３指標では「売上高」は 3.8 ポイント上昇、「収益状況」で 1.9 ポイント低下し、「業界の景況」は 1.9 ポイントの上昇となった。

製造業のうち「繊維工業」は、年間継続商品及び他取引先からの受注が減り売上は前年同月比で減少した。暖かい気候の影響で秋冬需要が大幅に落ち込み、比較的安定していたファスナー等の需要も減少が続いており先行きは厳しい。「金属製品製造業」においては、自動車部品で生産量の低下により残業まで至らない状況のほか、鋼材需要も停滞しており、工業団地内の企業全般で景況感は悪化している。景況悪化を背景に、年末に向けてはボーナスや賃上げが困難な企業が多くなっている。

非製造業のうち「卸売業」は、業種及び取扱商品によって流通量の増減に差が見られる。燃料価格の高止まりや物価高騰により収益は圧迫されている。従業員の確保も難しく、賃金アップに対応するには原資の確保だけでなく、労働時間の見直し等の課題が多い。「花・植木小売業」では高冷地から暖地へと産地の切り替え時期と婚礼及び葬儀などの業務需要を中心とする商材の入荷が思うように進まないことが重なり、全体的に高値で推移した。

当月の DI 値は、若干の好転もしくは横ばいの様相となった。多くの業種で人手不足及び後継者不足に加え最低賃金引き上げにより経営環境は一層厳しくなっている。景況感は依然として改善が見られないものの、一部では価格転嫁や受注増加によって持ちこたえている企業もあり、今後も慎重な経営判断が求められている。

図表１　【 業種別・指標別 DI 値一覧表 】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	-75.0	0.0	50.0	-25.0	-75.0	-25.0	-25.0	0.0	-75.0
繊維・同製品	-50.0	0.0	0.0	0.0	-50.0	-25.0	0.0	0.0	-25.0
木材・木製品	-75.0	-25.0	-25.0	-25.0	-50.0	0.0	-25.0	-25.0	-75.0
印刷	0.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
窯業・土石	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	-25.0
鉄鋼・金属	-50.0	-75.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	-50.0	-25.0	-50.0
一般機器	0.0	25.0	50.0	-25.0	25.0	0.0	0.0	-25.0	-50.0
製造業	-36.0	-8.0	24.0	-20.0	-36.0	-16.0	-24.0	-16.0	-52.0
卸売業	-66.7	0.0	0.0	0.0	-33.3	-33.3		-33.3	-33.3
小売業	-14.3	0.0	14.3	-28.6	-14.3	-42.9		14.3	-28.6
サービス業	16.7		50.0	-33.3	-50.0	-33.3		0.0	-33.3
建設業	0.0		20.0	-40.0	-40.0	-20.0		-40.0	0.0
運輸業	-25.0		0.0	0.0	-25.0	-25.0		0.0	0.0
その他	50.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-7.4	0.0	22.2	-22.2	-29.6	-29.6		-7.4	-18.5
全体	-21.2	-5.7	23.1	-21.2	-32.7	-23.1	-24.0	-11.5	-34.6

図表２【指標別DI値の推移】

	6年 10月	11月	12月	7年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	前月比
売 上 高	-9.6	-19.2	-11.5	-21.2	-7.7	-13.5	-5.8	-25.0	-15.4	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	3.8
在庫数量	-2.9	-2.9	-5.7	-14.3	-2.9	-2.9	-2.9	-11.4	0.0	-2.9	-5.7	-8.6	-5.7	2.9
販売価格	17.3	26.9	15.4	19.2	17.3	30.8	23.1	30.8	25.0	28.8	19.2	25.0	23.1	-1.9
取引条件	-9.6	-5.8	-9.6	-11.5	-17.3	-15.4	-11.5	-21.2	-23.1	-17.3	-25.0	-21.2	-21.2	0.0
収益状況	-21.2	-36.5	-25.0	-26.9	-28.8	-32.7	-23.1	-28.8	-25.0	-28.8	-34.6	-30.8	-32.7	-1.9
資金繰り	-21.2	-25.0	-19.2	-11.5	-15.4	-15.4	-15.4	-21.2	-13.5	-13.5	-19.2	-19.2	-23.1	-3.8
設備操業度	-8.0	-20.0	-16.0	-4.0	-12.0	-16.0	-20.0	-24.0	-12.0	-20.0	-16.0	-24.0	-24.0	0.0
雇用人員	-7.7	-11.5	-9.6	-7.7	-1.9	-11.5	-1.9	-5.8	-7.7	-5.8	-9.6	-13.5	-11.5	1.9
業界の景況	-28.8	-36.5	-36.5	-34.6	-42.3	-38.5	-38.5	-40.4	-26.9	-28.8	-38.5	-36.5	-34.6	1.9

特記事項　　情報連絡員報告（令和７年10月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 （産業分類細分類相当）	組合等及び組合員の業況等 （景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	最低賃金のアップなど今後の収益への影響が大きい。まだまだ光熱費及び水道料等も上がり厳しい。
	めん類製造業	お客様情報として、飲食店の経営者が高齢になり、後継者が不在のため年内で廃業する所がある。また、仲間の組合員の企業は、街中の立地であるが募集してもパートさんですら応募がないどころか在籍している社員さんがより良い条件の会社に行くので、近い時期に退職との申し出があり、社員の流動化が止まらない。外国人労働力の活用も考えなければならない状況が近づいている。 我々地元の中小企業では、大企業並みの福利厚生や待遇ができないので、やむを得ない状況と我慢が続いている。また、10 月より最低賃金がアップし、ほかのコストのアップもあり、経営的には圧迫が続いている。収益面では、影響を受けている仲間が多い。その中でも、何社かは製品価格のアップを実施した仲間もいた。嬉しい情報としては、全麺連の主催する国産生中華麺の品評会で、石川製麺と大西製麺の２社の作品が入賞した。輸入小麦が 90%を超える状況で、食料の安全保障について微力ながら貢献できるかと期待している。
繊維工業	縫製業	年間継続商品の受注数量の減少と他取引先からの受注生産品のオーダーがなかったため、前年同月の売上より減少した。業界全体の景況は、気候の温暖化により四季がなくなり、秋物商品が店頭にて著しく販売が落込み生産できなくなっている現状。冬物商戦を含め先行きは非常に厳しい。10 月１日からの最低賃金アップと併せて、持ち堪える事に不安しかない状況である。
	染色整理業	諸物価高騰の中、売上が伸びない。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	暖かい気温が続き、秋冬シーズンの新規需要は激減し、アパレルに関連する仕事は閑散としている。比較的安定しているファスナー等も減少傾向に歯止めが掛からない様子。新たな政治体制への期待感が膨らんでいるが早期に景気回復は見込めず、耐える時期はまだまだ続きそうだ。
木材・木製品	一般製材業	住宅用木材の荷動きは前月と変わらないが、店舗及び非住宅物件は伸びており景況感を注視して見ていきたい。
	家具・建具製造業	一部に販売価格上昇及び雇用人員の増加を示す企業があった。売上及び在庫数量は「減少」が「不変」をやや上回っている。業界の景況は「悪化」とする企業が多い。
	木材・木製品製造業	住宅向け資材の荷動きは引き続き低調。問屋の売上も全体的に減少している。木材価格も低空飛行状態。自社の周りでは非住宅物件の動きも一段落している。一方、梱包向け資材は引き続き好調を維持している。梱包部門では人手不足感は続いている。
印刷	印刷業	原材料及び人件費のほか間接経費もすべて上昇しているが、ネット印刷の影響もあり印刷料金は低迷しており、設備を稼働させても利益が上がりにくくなっている。
窯業・土石製品	石灰製造業	鉄鋼向けは、昨年比で増加となった。建材関係では、前年並となった。肥料関係は、前年比で減少となった。全体では、昨年比で増加となった。
	窯業・土石製品製造業	今年度上期（４～９月）の出荷量は約 6,543 千トンであり、昨年同期比ほぼ同様で推移している。
	陶磁器・同関連製品製造業	陶器市前で原材料の売上が伸びている。週末の観光客の入りも先月より多くなっている。陶器市では客数の増加により売上も伸びるのではないかと思われる。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	当月も工業団地内企業全般が景況悪化と判断している。自動車部品は生産量低下で残業に至らない。景況悪化で年末に向けボーナスや賃上げどころではない現状。鋼材需要も話題に乏しく活気がない。運動会など秋のイベントが理由で有給取得が多い月だった。お弁当代金も値上げとなりキャンセルする社員が多くなった。季節の変わり目で、インフルや体調不良の社員が多い。
	金属製品製造業	売上高減少は、家電（日立冷蔵庫）及び自動車（日産自動車）の減少によるもの。
	金属製品製造業	主な問題点は、仕入価格の上昇、人材不足及び人件費等経費の増加である。
一般機器	一般機械器具製造業	全体としては各項目とも前月と比べ不変とする回答が多かったが、販売価格が上昇するも売上高が減少するという組合員が多く見られた。コスト上昇分を価格に転嫁できても、販売数量の減少幅が大きい結果と推測される。高市政権の

		経済対策や中小企業支援はある程度期待しているが、株価が５万円を超える中でも実体経済は「ほとんど変化しない」との回答が多かった。今後の景気や事業環境については人材不足及び人件費の上昇が最も懸念される。
	一般機械器具製造業	前月同様、理由はわからないが、なぜか受注量が増えている。結果、資金繰りは好転した。現在の状況は順調に進んでいる。
	各種商品卸売業	当団地組合では、売上高は「減少」とする企業が若干多かった。業況等は前年同期に比べ「微減」とする企業もあるが、「不変」とする企業が上回った。
	各種商品卸売業	業種及び取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は高止まりし、物価高騰と相まって収益を圧迫している。従業員の人員確保が難しい（募集をかけても集まりにくい）。賃金アップについても対応していく中で、原資の確保の他、労働時間問題についても検討していかなければならないため課題も多い。
小売業	食肉小売業	秋がほとんどなく、冬に気候が変わった中で、需要も好転しつつあったが、諸物価の高騰や買い控えが続き今月の売上は微増した。温度が下がり仕入値も安定した。
	その他の小売業	昨年に比べ気温が高く、ガスの消費は途中まで鈍化傾向だが、10 月後半に入ると急激な気温低下によるガス使用量増加が見込まれる。10 月中旬以降の実績については、11 月中旬まで待たなければ数値でわからないが、肌感覚としては使用量の増加を予想している。なお、ガスそのものの元売仕入価格について市場は落ち着きを取り戻し価格がやや低下傾向だが、それに付帯する費用（配送等）は、人件費の高騰や働き方改革の影響で各社共に増加傾向にあり、配送にかかる仕切価格の値上げに踏み切っている。仕入価格はトータルとして値上がりしていると言わざるを得ない。
	各種商品小売業	10 月に入り急に秋らしい気候となったことで、アパレルを中心に季節商品の動きが出始めたが、全体的には依然として厳しい状況が続いた。物価高や生活コストの上昇による消費者の節約志向は根強く、売上は回復途上にある。11 月には開業 40 周年セールを予定しており、館内全体で集客強化を図ることで、年末商戦に向けた流れを作っていきたい。
	花・植木小売業	高冷地から暖地へと産地の切り替え時期もあり、婚礼や葬儀などの業務需要を中心とする商材の入荷が思うようではなく全体的に高値推移となった。
サービス業	理容業	「儲かる業づくり」というテーマで、収益アップのために新メニューの考案や顧客の集客について等のセミナーを支部単位で開催している。組合加入のメリットとして、組合員に浸透するよう実施していきたい。
	自動車整備業	販売価格の上昇により売上高は増加しているが、利用客数が減少したため収益は悪化傾向にある。
	旅館・ホテル	10 月宿泊も高稼働だった。アメリカとの関税問題への懸念と物価高が、ホテルでの宴会によくない影響を与えている。10 月も利用状況が悪かった。飲食店では物価高と関税問題による利用控えの影響が出ているように感じる。原材料の高騰の影響が非常に大きい。
	廃棄物処理業	2025 年 5 月より浄化槽の保守点検をスマートフォンで行えるサービス「みんなの浄化槽保守点検」が稼働された。現時点では、当組合企業への影響はない。組合員へ災害時の協力や支援可能な資機材について調査中である。
	給食センター	今後の事業転換の為、不採算事業の撤退などを進めている。
	一般土木建築工事業	昨年度同期と比べ収益状況、業界の景況ともに悪化の状況であった。地域の感覚としては、公共事業は災害復旧事業関連工事がほぼ完了し、民需も県北地区では活発な動きが見られないと捉えていることから「不変」とした。
建設業	職別工事業	対前年同期と比較し売上状況及び収益状況ともに増加傾向にある。ただし、人手不足及び後継者不足の状況は相変わらず続いている。
運輸業	貨物自動車運送業	アルミコイルの入出庫が荷主企業の生産調整によって減少している。価格転嫁ができている一方で、いまだに安い運賃を提示してくる依頼もある。貨物の物量が多くなると見込んでいるが、一方で人件費、燃料費、修理費、タイヤ費の高騰などが厳しい。年末は需要が増加すると思うが人手不足で不透明感がある。
	貨物軽自動車運送業	慌ただしかった９月に比べると、中旬の３連休前後に依頼が集中したのみで、昨年同様の動きであった。業界全体でみると年末商戦の宅配に向けて、ドライバーや車の確保で動きが活発になっている中、JP の問題も重なり、圧倒的に人も車も足りなくなっている。

	一般旅客自動車運送業	今年は天候にも恵まれたせいか多くの行事が行われた。人出があればタクシーの需要もあり、宇都宮に関してはホテル等宿泊施設の増加もあり地元民はもとより県外からの来客も目立つ。LRT、餃子、各スポーツファン、コンサートと相乗効果が感じられるので更なる高みを期待したい。
その他の非製造業	大谷石採取業	業況は業界（大谷石）がやや好転しているが、石目が悪い層になっているため採掘が間に合わない状況となっている。